さうすれば、誰も物好きに餓死を賭してまで遊びたいと云ふ者もあるまいし、相當に働いて分配を受けるのが一番樂な事になるのだから、成るべく少く働かうといふ氣になる筈もなし、働く者が馬鹿を見るといふわけになる筈もない。

三

然しまだ一つ問題が殘る。皆が相當に働くといふ位では、矢張り社會全體の生産が減少しやしないか。今日では、之ほど皆が一生懸命に働いてゐるのだが、といふ疑ひを起す人もあるのだらう。それも御尤もな疑ひである。

然し今日皆が果して一生懸命に働いてゐるかどうか。生活の困難に迫はれて少しでも多くの收入を得ようとあせつてゐる所には、如何にも一生懸命に相違ないが仕事に對する忠實とか親切とかいふ點に於いては、多くの人は決して一生懸命ではない。實は大抵の人が馬鹿々々しいといふ感じを持つて、雇主に知れぬ事ならば成るべくズルけよう、ゴマかそうと考へてゐる。そこで長い時間働いても、存外効果は擧つてゐない。又餘り長い時間働くのだから、疲勞が多くて効果の擧りようがない。

それに又、今日の勞働組織には大變な無駄がある、工場と工場との競爭、會社と會社との競爭、資本家と資本家との競爭、國と國との競爭。それらの競爭から生ずる廣告とか運動とかセリアとか云ふもの、無駄が實に夥だしい。

更に又、今日の社會では、勞働賃金の安い爲に機械の發明を妨げ（機械を使ふより人手を使ふ方が安上りであるから）それが爲に生産力の增大を阻止してゐる場合もある、折角能率の高い機械が出來てゐながら、それを十分に働かせては生産過剩になつて資本家の利益が少くなるから、態と生産力を抑へておく場合もある。モット大仕掛にすればよいのに、前記の競爭の爲、仕掛の不足してゐる場合もある。貧富對立の爲に、虛榮虛飾が多く、無益な贅澤品ばかり多量に生産するといふ馬鹿な事もある。